

主体的に学び合う算数授業

～ 6/26(火)算数科授業研究会 ～

平成20年度よりご指導をいただいている石田淳一先生（横浜国立大学教育人間科学部教授）をお迎えし、2学級が算数の授業公開を行いました。

石田先生は、話し合う力を育てるために、「シナリオ」を活用した3ステップの話し合い指導を提案されており、本校も実践を行っています。

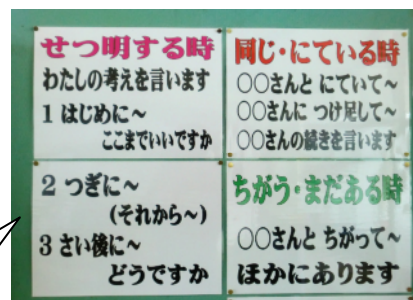
ステップ1：聴き方・話し方・話し合い方の仕方のモデルを知る

基本的な聴き方・話し方を指導した後に、話し合いのシナリオを活用して聴き方・話し方の視点や話し合いの仕方を学ぶ。話し方の表現をカード化する。
 ＊ 本校は「伝え合い・学び合いカード」を作成して活用しています。これは、石田先生の本でも紹介されています。



石田先生による授業

各学級の実態に応じて、身に付けたい発言の仕方（「〇〇さんに付け加えて…」等）が、教室に掲示されています。



ステップ2：カードを用いて、話し合いの中で適宜、指導を行う

普段の授業の中で、シナリオ指導で学んだ話し方を表現するカードを用いて意識化を図ったり、使わせたりする。

ステップ3：話し合いの中で、適宜、指導を行う

話し合いカードを使わずに、授業中により表現を認めたり、授業後に話し合いについて評価したり、子どもに振り返らせたりする。

先生の考え方は、研究テーマ「伝え合い、学び合う授業の創造」に反映され、どの教科でも、「友達の名前がたくさん出てくる授業」を目指しています。

3年「買えるかな、買えないかな」

1,000円で525円のクレヨンと、315円のはさみと、210円のセロハンテープの3つを買うことができますか。

子どもたちは、「つなげてください」「〇〇さんに付け足して…」「□□さんと違って」等により、



グループごと前に出て理由を説明

学習を深めていきました。また、同じ考えであっても、「同じです」と言って、自分の言葉で繰り返していました。伝え合いの方法が身につけてきています。

6年「文字と式」

文章問題で気づいたことを出し合い、式や答えの説明を積極的に行うなど、主体的な学習の中で力を伸ばしています。

ヨットの模型をつくります。ほの形は三角形で、高さは 8 cm とし、底辺の部分のひごは、長さ 13 cm 、 13.5 cm 、 14 cm の中から1つ選んでつくります。底辺の長さを $x\text{ cm}$ 、ほの面積を $y\text{ cm}^2$ として、 x と y の関係を式に表しましょう。面積が 56 cm^2 になるのは、底辺のひごが何 cm にしたときですか。

<最近の学校生活から> 白君、美桜ちゃんとお別れ 6/14(木)

白と鹿田さん



美桜と高波さん



鹿田さんへ：白はとてもやんちゃですがよろしくお願ひします。ぼくと白との思い出ではいっぱいありますがその中の4つをお話します。

一つ目はぼくの指をかんだことです。その時とてもうれしかったです。ぼくになついた感じでした。二つ目は一緒にお散歩をしたことです。白はちょっとずつ進みました。とても楽しかったです。三つ目は白がキャベツを食べた事です。四つ目はぼくの背中に乗ったことです。鹿田さん、白のことはお任せします。大事に育ててください。白は元気がいいので気をつけてください。散歩やえさを十分にやってください。【6学年通信 JUMP より】

お別れ式からしばらくたって、子どもたちが美桜に会いに行きました。その子たちの話では「たくさんえさをもらって、おなかがおおきくなっていて、とても幸せそうでした。」とのことでした。また、白は大自然の中に、運動場付きの小屋を建設してもらっている最中で、こちらでも幸せに生活をしているそうです。